

令和6年度射水市中小企業・小規模企業振興会議 会議概要

【日 時】令和7年2月26日（水） 午後2時から

【場 所】射水市大島分庁舎 大会議室

【出席者】

会 長 塩見 一三男（富山大学地域連携戦略室 教授）
副会長 八嶋 祐太郎（射水商工会議所 副会頭）
委 員 池田 善揮（射水市商工会 副会長）
宮田 雅人（射水市地域振興会連合会 会長）
加藤 健（富山県新世紀産業機構 中小企業支援センター次長）
高橋 利幸（北陸銀行小杉支店 支店長）
長慶 清（新湊信用金庫 本店営業部長）
加藤 賢一（富山県立大学地域連携センター 産学官連携コーディネーター）
京角 輝彦（射水市中学校校長会 会長）
（欠席）
小杉 奈津子（射水商工会議所 女性会会長）
八箇 かの子（射水市商工会 女性部長）
橋本 雅文（アイシン軽金属株式会社 執行幹部）
牧野 翔太郎（連合富山射水地区協議会 副議長）
浦嶋 竜也（高岡公共職業安定所 所長）
小林 正良（日本政策金融公庫 高岡支店長）

（事務局）

射水市産業経済部長 塩谷 明永
産業経済部次長 福井 有希夫
産業経済部次長 坂井 春良
商工企業立地課長 盛光 寛人
商工企業立地課商工労政係長 大久保 亜紀子
商工企業立地課商工労政係主事 杉森 慶子
商工企業立地課商工労政係主事 高田 慶
射水商工会議所事務局長 向田 真理
射水市商工会事務局長 篠田 千春

【会議概要】

1 開会

2 議事説明事項（※項目毎に事務局説明のうえ、随時「3意見交換」を行う形で進行）

(1) 会長選出

(2) 射水市ビジネス支援センターの設置

《事務局 資料説明》

(委 員)

ビジネス支援センターの職員配置について教えていただきたい。

(事務局)

センターには、ビジネスアドバイザーとコミュニティマネージャーの2名が常駐する。

(委 員)

センターの営業時間は相談者のニーズに適するものか。平日だけでなく相談者のニーズに合わせた体制が必要ではないか。

(事務局)

午後5時以降の対応については、学生団体に対応をお願いすることとしている。まずは、センターを利用していただくことが必要と考えるため、周知に努めていく。

(委 員)

商工企業立地課を移転することに伴うリスクはあるか。

(事務局)

産業経済部としての協力体制の維持が必要である。オンラインなどツールを活用して対応してまいりたい。

(委 員)

センターの支援が起業・創業に寄りすぎていないか。既存中小企業への伴走型支援も強化すべきと考える。また、センターと商工団体と支援内容が重なる部分があるがその違いはどこにあるのか。

(事務局)

既存企業への伴走型支援が大変重要であることは承知している。

商工団体ではこれまで通り会員企業への支援を行う中で、相談内容に応じてセンタ

一も活用していただきたい。また、センターでは会員以外の支援はもちろん、市内企業全体の売上向上につながるよう、支援してまいりたい。

(会 長)

改めてセンターで重点を置いていきたいことは何か。

(事務局)

市内中小企業の売上、利益向上が第一として、学生の起業創業機運醸成を図りたい。特に、工学系の大学と企業との連携など、センターとしての色を出していきたい。

(委 員)

センターでの相談見込みはどのくらいか。

(事務局)

具体的な想定はしていないが、企業訪問などを通じてセンターの周知に努めたい。

(3) 令和6年度 主な施策の取組状況と目標値の達成状況

《事務局 資料説明》

(委 員)

企業団地の分譲率の見通しについて教えてほしい。

(事務局)

市が所有する企業団地については、沖塚原企業団地は残り1区画であり、小杉インターパークは造成中である。県が所有する企業団地が複数あり、県とも連携しながら早期の分譲を目指したい。

(委 員)

成果指標について、販路拡大支援事業における成約率が今年度低いことに対する対策は検討しているのか。また、従業員が希望する期間の育児休業を取得させた企業の率について、目標値の設定は正しいのか。

(事務局)

販路拡大支援事業における成約率については、今後ビジネス支援センターで支援を行うなど、成約率向上につなげたい。

育児休業を取得させた企業の率については、社会情勢によるところもあるため年度により変動がある。平均的に目標値を達成できるよう取り組んでまいりたい。

(委員)

成果指標について、製造業従業員数の増減は把握しているか。また、雇用対策において、若い世代の採用が困難なことや外国人を採用する企業が増えているとも聞いているが、今後の対応はどう考えているか。

(事務局)

製造業従業員数については、把握していない。

雇用対策については、若者の採用にはインターンシップが有効と言われているため、企業がインターンシップを後押しできる取組を考えてまいりたい。

(委員)

ゆとりライフ互助会の加入者数を増やすための取組はどう考えているか。

(事務局)

会員数は減少傾向にあるが、市の創業支援事業補助金や商店街等新規出店支援事業補助金を使って新たに事業を行う方々にゆとりライフ互助会をPRするなど事業内容のPRに努めていきたい。

(委員)

ゆとりライフ互助会について、祝金などはあるが、毎月の掛金に見合う事業がない。事業もマンネリ化していると思われたら会員減少につながる。もっと目新しい取組があってもいいのではないか。

(事務局)

コロナ禍で自主事業ができなかったことも原因と考えている。今後、ボウリング大会や日帰りツアーなど自主事業を充実させてまいりたい。

(委員)

市内企業が抱える課題について、市として把握しているのか。

原材料費の高騰、人件費の高騰、人材不足がどのアンケート調査でも上位を占めているが、市の認識はどうか。

(事務局)

毎年実施している企業状況調査において、昨年度は1位 原材料費の増加、2位 人材確保 3位 設備老朽化、人件費の増加 であった。令和4年度についても同様である。

(4) 令和7年度 射水市の中小企業振興施策

《事務局 資料説明》

(委員)

保証料助成について拡充されるとのことだが、創業する方に対する融資の利子軽減など、意欲のある方に対して支援を検討してほしい。

(事務局)

来年度保証料助成についてまず拡充することができる。支援については、拡充を検討してまいりたい。

(委員)

企業団地の適地調査について、現時点でどのように考えているのか。

(事務局)

県が策定する富山高岡広域マスタープランにおける区分見直しの時期でもあり、市としてどこが適しているのか見極めるために調査を行うもの。

(委員)

14歳の挑戦はマンネリ化していると考えるが、生徒が企業を知る大切な機会と考える。教育委員会との連携をはじめ、もっと企業側からの働きかけがあってもいいのではないか。

(事務局)

14歳の挑戦に関しては、将来地元で働きたいという機運を醸成する事業と考える。実施方法については、教育委員会とも検討してまいりたい。

(委員)

助成の多様な働き方支援について、どのような事業を想定しているのか教えてほしい。

(事務局)

企業において、例えば広報分野など業務を切り出しできる部分を洗い出し、その部分を専門的な研修を受けた方に外注していくことで、企業においての人材不足への対応及び時間的制約のある方の社会参加とを支援していくよう考えている。

(委員)

保証料助成の引き上げにつながった経緯を教えてください。

(事務局)

金融機関や商工団体からの要望があったこと、他市町村の状況を参考にし、今回引き上げにつながった。

(委員)

保証料助成が引き上げとなったが、予算額が減少しているのはなぜか。保証料助成が引き上げとなれば、融資利用が増加すると考えられる。

(事務局)

過去の平均額から予算を計上しているため。今後必要に応じて補正するなど対応してまいる。

(委員)

空き物件チャレンジショップについて、小杉駅前の空き家を市で抑えてチャレンジショップにするくらいの大膽なことをしないと駅前の賑わい創出につながらない。

(会長)

成果指標や目標値は、施策の効果を図る数字でしかない。次回以降は、もっとその背景を議論していくべきと考える。

3 意見交換

特になし

4 その他

5 閉会

午後3時30分終了